

こんにちは、 日本共産党井上けんじです

日本共産党南地区委員会 ☎ 371-9164 自宅 ☎ (F兼) 691-3323 (携帯) 090-7880-9442
 日本共産党京都市議員団 ☎ 222-3728 FAX 211-2130
 市議員団ホームページ <http://cpgkyoto.jp/> E-mail info@cpgkyoto.jp 2020年11月15日



京都市、病あつかい

答弁に見る自治体の魂喪失の現状

9日、市議会総務消防委員会が開かれ、市長提案の「市民税減免制度廃止」に伴い、福祉施策に大幅負担増などの影響が出る問題について議論しました。「減免の不公平をただす、他の自治体もやっていると、国の考え方に合わない」等を欠き、また国言いなりの姿勢など、自治体の魂を失ったような答弁が続きました。廃止



公衆衛生の充実を求めるつどい (11/1)

市民意見募集

京都市基本計画 (案)

今後の5年間の市の方針が書かれています。抽象的な表現で具体性が乏しいものですが、基本は今の方針の継続です。12月4日まで。

新景観政策の進化 (案)

要するに、高さなど規制を緩和しようとするものです。景色が悪くなり高いビルに囲まれて、固定資産税や家賃が上がる要因になっていきます。11月25日まで。

※ いずれも、案文や送付先等、詳細は、井上議員までお気軽に。

● 市幹部にこの減免制度実施は京都市だけの井上議員の感想にむか。 問できません。 問の特徴、井上議員の感想を紹介します。同議員は委員長のため、質問できません。

● 国も注目している(早く廃止しろとの意向)。 市原点は市民生活を守ること。今回の減免廃止は税の公平公正との観点から。 守ると言うなら守るべき。庶民増税と負担増がなぜ公平公正になるのか意味不明。 全国と同じ負担をお願いしたい。

※ 見出しの表現は、「荒城の月」作詞などで有名な土井晩翠「星落秋風五丈原」(「三国志」の諸葛孔明の死の直前の様子を詠った詩)の「丞相(孔明のこと)病あつかい」からもじったものです。

▼ 質問個人市民所得者の税率を98億円の増

「財政危機」は本当か!?

⇒ 何の為の地方自治体なのか。
 ● 条例でどんなことをしてもいいの。
 ⇒ 法律の範囲で独自に条例を決めて、国以上の基準など市民生活を守るのが自治体の役割。
 ◎ 他党の質問に現在の減免制度は違法なのか(日本維新の会)。
 ⇒ 目が点に。減免制度自体を攻撃。公共団体である市がどうして違法状態を何十年も続けられるのか。荒唐無稽。◎ 税金を納めるのは義務だ。憲法は権利はたくさんあるのに義務は三つだけ(自民党)。
 ⇒ これも市を応援する

● 答弁に2006年以前は所得に依じた三段階の税率であったが、その後、低い税率を上げ高税率を下げて、所得に無関係に同じ税率になった。地方税に標準税率より高い税率でお願いしている。

立場からの質問。権利と義務は裏腹との趣旨の質問もあったが、これは私人間の権利義務と憲法の国・国民の關係との混同か。



こくた恵二衆院議員の国会報告 (11/8)